

AmiVoice®Ex Rad 導入事例

読影した内容をマイクに向かって話すだけで報告書を作成できるので、
キーボード入力より負担なく、詳細な報告書をスピーディに作成できます。

以前にAmiVoice®Ex Rad を使用されていた経験があり、開業時に読影レポート作成の強力な支援ツールとしてご導入いただきました。来院される患者様の画像診断及び、クリニックとしては珍しい遠隔画像診断も行われている、田端放射線科クリニックの院長 横山先生にお話を伺いました。

● AmiVoice®Ex Rad をどのようにご使用いただいていますか？

CT検査が終わった患者様の目の前で、画像診断しながらマイクに向かって話して報告書を作成しています。報告書は情報提供書となるものですから、出来るだけ詳細な情報を記載したいと思っています。しかし、読影したすべての事をキーボードで打つのでは大きな負担になるので、省略してしまいがちです。その点、AmiVoice®を使えば、読影して話した言葉がそのまま報告書に入力できるので、負担を軽減しつつも詳細な報告書を作成することができます。とても素晴らしいです。

● キーボードと比較して、報告書作成の時間は短くなりましたか？

格段に速くなりました。一度音声入力を使ったらもうキーボードには戻れませんね。遠隔画像診断も含めると、一日に100件くらい読影することもありますから、読影だけでもかなりの時間を要します。読影は詳細に行いたいので時間を割きたいし、読影のスピードも上げることはできません。そうすると、報告書の作成時間を削減することが命題となり、音声入力は不可欠なツールとなっています。そうして、一日に読影する件数を増やすことができるため、患者様をお待たせする時間を極力減らすことができます。



● 先生は患者様の前でレポートを作成することですが、患者様の反応はいかがですか？

音声入力を初めて見る患者様がほとんどなので、皆さん非常に驚かれます。目の前で、話した言葉がそのまま文字になって画面に入力され報告書が出来上がる様子は画期的で大きなインパクトを与えています。そして『あその病院、音声入力を使っていて進んでいるのよ。』と、最新技術を積極的に取り入れている医療施設というイメージを持ってもらえます。

ご協力ありがとうございました。先生には長時間お話を伺わせていただきましたが、誌面スペースの関係上残念ながら今回掲載できなかった部分もございました。また、単語の認識等についてのご指摘もいただき、今後の課題とさせていただきます。

AmiVoice®Ex Rad 導入効果

- 一日の読影件数が増加
- 報告書を診断(読影)と同時に作成
- より詳細な報告書を自在に作成
- 最新技術を導入している施設としてアピール

PROFILE

医療法人社団田端放射線科クリニック

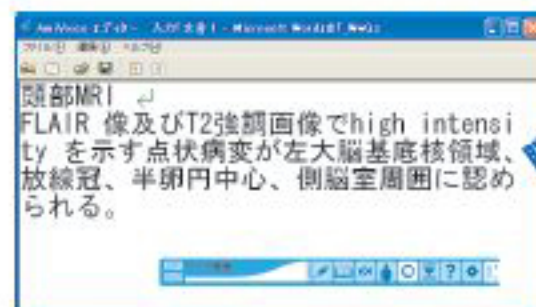
院長 横山 佳明 先生
所在地 東京都北区
診療科 放射線科・内科
AmiVoice®Ex 導入時期
2003年4月
(Rad/Clinicご併用)



AmiVoice®Ex

問い合わせ先
株式会社アドバンスト・メディア メディカルソリューション部
TEL 03-5958-1045
E-mail: info@advanced-media.co.jp

●AmiVoice® およびロゴマークは株式会社アドバンスト・メディアの登録商標です。



脳室、脳溝に軽度の拡張を認める。軽度脳萎縮を反映して

